

企業名：                     関西ペイント                    

レポート名：                     2021 統合報告書                    

## 1. この会社が目指す姿が理解できるか

関西ペイントは企業理念として「塗料事業で培った技術と人材を最大限に活かした製品・サービスを通じて、人と社会の発展を支える」、創業の精神として「利益追求と社会への発展」を掲げる。3 ページに記載されている『TOP MESSAGE』を踏まえると、「人と社会の発展」とは、社会発展に貢献しうる事業、地域、人材に積極的に投資し、事業を支える強固な経営基盤をつくることである。これに際し、現在の社会が直面している気候変動、生物多様性の保全、人口増加・都市化、サイバーセキュリティなどの課題を積極的に解決していくものとみられる。生じるこれらの課題に伴い、脱炭素化や IT 革新による新需要やモビリティ需要の増加、イノベーションなど世界が必要とするものも変化している。これらの変化に需要を見出し、積極的に事業を展開する姿勢が見られる。

関西ペイントの統合報告書は、会社の目指す姿が理解しやすかった。それは、事業の内容と課題解決の結びつきが具体的に示されているからであると考えられる。一部のトピックに記載されているマテリアリティと SDGs との関連の表や、27 ページから 33 ページに記載されている地球環境との共生に関してのトピックについての図表が具体的であり、この会社がサステナビリティの実現に向けて現実的に取り組んでいる様子が伝わってくる。

また、関西ペイントはグローバルな企業として拡大していこうとする姿も印象強い。7 ページに記載されている『社会貢献と挑戦の歴史』によると関西ペイントは戦後の成長期にシンガポールを皮切りにタイ、台湾、インドに海外進出を開始した。1987 年から 2010 年にかけては海外進出期として、国内自動車メーカーの海外進出に伴い本格的なグローバル化に乗り出した。2011 年から 2018 年にかけてはグローバル化加速期として塗料需要増を狙い、経済成長が著しい新興国を中心に M&A を行いグローバル化を加速した。海外売上高比率のグラフによると、2017 年以降全体の売上高に対し海外売上高が 60%以上を占めている。これはこの企業がグローバルに活躍する企業であることを強く示す指標である。19 ページの『世界の各地域における今後の方針』は世界の各地域ごとにどのような需要があるのかを示したうえで今後の事業方針を示している。このページからは今後もグローバルな事業を積極的に展開していこうとする姿が強く印象付けられた。

## 2. この会社の競争優位性が理解できるか

この会社の競争優位性は商品とサービスそのものにあるという印象を受けた。  
現在の社会課題に対応するために技術開発・製品開発を行い、同業他社の塗料製品と比べて

より環境に優しく、耐久性の強い塗料製品を製造している。日本の経済成長期前から国産塗料製造の初期段階をリードしてきたという実績もあり、商品への信頼も厚いことが競争優位性として挙げられる。また、グローバルに事業を展開する企業であるため、地域によって需要の特徴が異なる。19 ページの『世界の各地域における今後の方針』にも見られるように、各地域の必要性に応じて商品やサービスを供給していることも関西ペイントの強みであると考えられる。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

技術開発・製品開発を継続していくことができれば競争優位性に持続性があると判断できると考える。技術開発・製品開発を行うには十分な資本が必要である。11 ページの価値創造プロセスによると、人的資本として 15,908 名の連結従業員、知的資本としてグループ全体で 6 か所の開発拠点、6,400 百万円の研究開発費を持つ。財務状況としては自己資本比率が 47.3%と高く、財務状況の健全さがうかがえる。また分野別売上高を見ると自動車分野が 24%、工業分野が 28%、建築分野が 28%を占める。仮に、ひとつの分野が極端に大きな比率を占めていれば急激に売り上げが悪化するリスクがあるが、この会社は複数の分野でバランスよく売上をあげている。これらを踏まえると、資金的には安定的に技術開発・製品開発を行うことが可能である。ゆえに同業他社の製品よりもすぐれた製品を生み出す事業を行うことが可能であり、商品そのものの競争優位性が保たれると考える。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

関西ペイントはサステナビリティ、多様性といった今の社会に求められているものの実現を強く謳う会社であり、この会社において社会的使命を果たす主体となることは自身の社会貢献の方法を経験的に身に着けることを可能にすると考えられる。これからの社会では利潤だけでなく社会課題解決への貢献に主体的に取り組むことのできる人材が評価されるという話をよく聞く。関西ペイントの事業にかかわることは、社会課題に自覚的に携わることが必要であり、課題を技術や開発により解決するノウハウを身に着けることにつながる。したがって、関西ペイントで自身の人的資本の価値を向上させることは可能であると考えられる。

### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体として会社の姿が伝わりやすく、明快な報告書であるという印象を受けた。改善余地を挙げるとするならば、11 ページの価値創造プロセスの図を挙げる。会社の事業内容になじみがない人にとっては様々な項目が羅列されているだけのように見え、読み解きにくい図であるように感じた。また、21 ページから 23 ページにかけての事業概要について、各事業

の説明がどれも似通っていて記載の意味があるのだろうかと感じた。